

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												細菌感染	N Engl J Med 2007; 356: 2381-2387	ペルーに旅行した後、熱および脾腫を呈し、Bartonella bacilliformisに似た微生物による菌血症となった患者の血液検体を培養し、分離菌を調べた。遺伝子解析により、この分離菌はB. clarridgeiaeに近縁で、B. bacilliformisに遠縁の新種であることが明らかになり、B. rochalimaeと名づけられた。この分離菌を赤毛ザルに接種したところ、3日目には発熱し、7日目にヘマトクリット値が減少し、14日目に菌血症となった。
324	2007/07/24	70324	日本製薬	乾燥人血液凝固第Ⅷ因子複合体	血液凝固第Ⅷ因子複合体	人血液	日本	有効成分	有	無	無	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPA Press Statement 2007年1月18日	英国で輸血と関係した新たなvCJD症例(4例目)が、最近診断された。この症例は後にvCJDを発症したドナーからの輸血を受けた約9年後にvCJDと診断された。同じ供血者からの輸血は以前に同定されたvCJD1例とも関係していた。4例目の患者は以前からvCJDに暴露した可能性を知らされていた。4例目のvCJD感染症例により、輸血を介したヒトの間におけるvCJD感染リスクについての懸念が高まっている。4症例は全て、成分輸血に関係したものであり、血漿分画製剤による治療に関連した症例は今まで報告されていない。
												ウエストナイルウイルス	CDC/MMWR 2007; 56(4): 76-79	ID-NATを用いた強化スクリーニング開始以降に、初めて西ナイルウイルス輸血感染症例が報告された。2006年に免疫不全患者2例が、感染ドナー1例(献血時のMP-NATの結果は陰性)由来の血液製剤を投与された後、西ナイル神経骨髄炎性疾患を発症した。今回の例はID-NATは実施されておらず、ID-NATトリガーを促進することが重要である。
												異型クロイツフェルト・ヤコブ病	FDA/CBER 2007年 3月15日	FDA、CDCおよびNIHを含む米国Public Health Serviceは、米国で承認された血漿由来第Ⅷ因子製剤を投与された血友病Aおよびフォンウィルブラント病患者のvCJDリスクは極めて小さいとの見解を示した。血漿由来第Ⅷ因子を含む他の血漿由来製剤によるvCJDリスクは同程度もしくは更に小さいと思われる。
												伝染性紅斑	Vox Sanguinis 2007; 92: 121-124	ハプトグロビンおよび抗トロンビンの2つの異なった調整液にヒト/バルボウイルスB19を加え、60℃で10時間処理した。異なった溶液中のB19は加熱中異なった熱感受性パターンを示し、ハプトグロビン調整液中では緩やかな不活性化、抗トロンビン調整液中では限定的な不活性化であった。異なった調整液を用いた以前の研究ではB19は迅速に不活性化され、今回の不活性化の動力学とは大きく異なる。B19の熱感受性は溶液組成に大きく依存する。